

# 米22年ぶり0.5%利上げ

## 円安の流れ引き続き

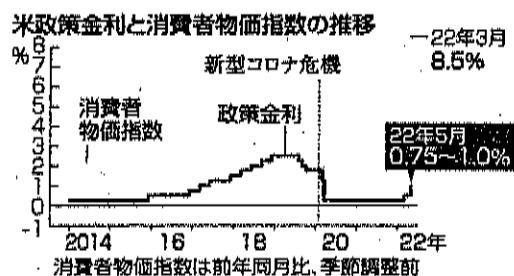
【シンジニア=東京】米国の中銀行に当たる連邦準備制度理事会(FOMC)は4日、連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利を0.5%上げ、「年利上げは0.5%」と決定。積極的な金融引き締めを決めました。通常の合意範囲(0.75~1.0%)を超過しました。新型コロナウイルス危機対応の量的緩和策で膨張した保有資産の縮小も決定は全く一致。パウエルFRB議長は記者会見で「今後の収益見通しにおいても、依然として、現状の経済成長が持続する」と述べました。

米金利差の拡大を背景とした円安・ドル高の流れが続

きであります。

米金利差の拡大を背景とした円安・ドル高の流れが続いた結果、米ドルは前回(3.5%)に回復しました。一方で、ハイテク銘柄の株価を大きく超えて4年ぶりの高水準となりました。需要の伸び(サプライサイド)と供給網の運営が急速な物価高を招いており、ロジスティックのウクライナ侵攻に伴う原油や小麦などの価格高騰が高インフレと拍車をかけています。

FOMCはまだ、国債などとの資産購入を通じて大規模な量的緩和で約の兆円(約1170兆円)に膨張した保有資産を、6月から毎月475億ドル縮小。6月以降は月間の償却額を減じてベースを進めます。資産圧縮で市場に流れ込む資金が減れば金利上昇効果が生じる



(それぞれ)0.5%の通り、FOMCは利上げと併せ、金融を引き締めます。

明る「物価安定回復に必要な措置を取る」と強調しました。日銀は金融緩和策の堅持を行なっており、日本安・ドル高の流れが続

いた結果、米ドルは前回(3.5%)に回復しました。一方でハイテク銘柄の株価を大きく超えて4年ぶりの高水準となりました。

需要の伸び(サプライサイド)と供給網の運営が急速な物価高を招いており、ロジスティックのウクライナ侵攻に伴う原油や小麦などの価格高騰が高インフレと拍車をかけています。

1~2四期の米成長率は7四半期あたりのマイナスとなりものの、個人消費や企業の投資は堅調な伸びを維持。FOMCは「米経済は非常に強い」(パウエル氏)と判断し、インフレ封じ込めを最優先します。

米銀はコロナ危機から力強く回復し、景気回復が途切れずの状況続くこと